

主な質問と答弁の要旨

加藤 良治 議員

Q1 『夢・志』明確化事業について

具体的な考え方や内容は

問 「一流アスリートをして『夢先生』として招き、交流などを通じて、子どもたちの『夢・志』の明確化を図る。」とのことだが、当該事業は単年度なのか継続事業なのか、具体的な考え方や内容について教育長の考えを伺う。

答 (堀部教育長) 私たちは、『夢・志』を持ってたくましく生き抜いていく子どもを是非とも育てたいと考えています。『夢・志』は、すべての行動の原動力になるため、来年度、「夢・志をもつこと」や「それにむかって努力することの大切さ」を伝えるために、『夢・志』明確化事業を計画しました。

具体的には、マラソン、柔道、野球、バレーボール、シンクロ、ナイズドスイミング、体操等、いろいろなスポーツの一流現役選手・元選手を「夢先生」として、小学校に招き、対象は5年

生とします。

内容は、40人以下の子どもの対象にした100分程度の授業で、「ゲームの時間」と「トークの時間」の2つで構成されています。前半の「ゲームの時間」では、アスリートが子どもたちと体を動かして、互いの緊張をほぐしながら、仲間と協力することの大切さ、相手を思いやる心を伝える。

後半の「トークの時間」では、一流のアスリートである夢先生の体験談をもとに、「夢を持つことの素晴らしさ」、「それに向かって努力することの大切さ」を伝えたいと考えています。そして、単なる講演ではなく、ワークシートを使い、子どもが自分の夢を書き込んだりする場面もあり、それに対するアスリートからの返事もいただくなど、既に岐阜県内でも、6つの市町村が実施しており、とても有益であると聞いていますので、この事業は、継続事業にしたいと考えています。

『夢・志』明確化事業の必要性和視察の成果は

問 先日の立志式においては、大変素晴らしい発表もあり

感動した。八百津町は、スポーツ等を通じた青少年育成に力を入れているが、当該事業と様々な団体・クラブ活動との整合性や、文科系の『夢・志』明確化にも寄与するものであるのか。私が調査したところ、県下で当該事業を既に導入している市町村があり、教育長も視察に行つたと聞いている。『夢・志』明確化事業の必要性について、視察の成果を含め考えを伺う。

答 (堀部教育長) 現在、中学校においては、『夢・志』をもたせるために、町内中学校の先輩方を招いて、「生き方」について学ぶ機会を設けています。

また、苦勞しながら努力し、成功・成長している民間の方々からも学習する機会を設け、町内の職場で働く体験も実施しています。

教育委員会としても、『夢・志』をもたせる営みを行つており、その一つが「立志式」です。今年度は、3月10日に開催し、すべての議員の皆様にご臨席を賜り、感謝いたしております。そこでは『夢・志』にかかわる4人の中学生の発表、『琵琶奏者・田中旭泉先生の「琵琶の道を選んで」の講演」などから、子どもたちは「夢・志を明確にし、それに向かって努力していく」と決意することができたのではないかと考えています。

また、「立志式」以外では、質の高い芸術文化の鑑賞や早稲田大学の学生との交流の機会をもたせるなどの事業を行つていきます。

今回の『夢・志』明確化事業は、スポーツを通しての青少年育成事業です。しかし、一流のアスリートを養成することを求めるものではありません。種目はいろいろですが、アスリートの生き方を通して、「夢・志をもたせること」、「それに向かって努力すること」の大切さを学ばせるためのものであり、それは、すべてに通じるものであります。

次に『夢・志』明確化事業の必要性について、ということですが、松下電器産業(株)(現パナソニック(株))の創始者であります松下幸之助氏は次のように言っています。

『志を立てよう。本気になつて、真剣に志を立てよう。生命をかけるほどの思いで志を立てよう。志を立てれば、事はもはや半ば達せられたといつてよい。志を立てるのに老いも、若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ずひらけるのである。』

先ほどもお話しましたが、『夢・志』は、すべての行動の原動力になります。『夢・志』を持ち、その実現のために実を結ぶ目標を持って生活している

人は、実に生き生きとしており、活力に満ちています。

一人一人の子どもは、社会の中で何らかの役割を期待されて生まれてきたかけがえのない存在であり、自分のためだけでなく、世のため、人のために尽くす『夢・志』を是非とも持たせたいと考えています。

私は、1月11日に教育委員会の職員2名とともに、揖斐川町の小学校で『夢・志』明確化事業を実施しているところを視察して来ましたが、子どもたちの目は本心に輝いていました。一流のアスリートの話などに触れ、「自分の夢」について考える時間は、とても有意義なものとなっていると感じました。

機会の公平という観点から

問 私は『夢・志』というものは他人に明かすものでも語るものでもなく、ぐっと自分の胸に秘め、人知れずコツコツと努力するものと考えて、実践してきましたので、多少の違和感を覚えました。

義務教育の過程で、特定の学校あるいは特定の学年に限られて当該事業の機会が得られるのは、機会の公平という観点から好ましいのかどうか考えを伺いたい。

答 (堀部教育長) 『夢・志』は他人に明かすものでも語るものでもなく、人